

## 推薦書

金田昌司会員の研究は理論分析とそれに基づく政策を中心に展開されている。研究領域は経済地理学における立地理論と地域政策分野に渡っている。日本の経済地理学界が新たな展開を模索する時代に A.Lösch と W.Isard による理論の独創性と重要性を看破し、それらを体系化し経済地理学界に 1 つの流れを生み出した。またドイツに源を有する立地分析を丹念に考察し伝統的立地論の精緻化を図り理論分野での発展に多大な貢献をなした。さらに統計学の手法を駆使し人口分析を進め実証面においても寄与した。

上記の研究成果は経済地理学年報(25-4(1980), 29-1(1983))をはじめ多くの学術誌において発表された。とりわけ、「A.レッシュの立地論について」(1)、(2)、(3)(経済学論纂 1962, 1963, 1964)は立地論の進展において重要な論文となった。また『経済立地と土地利用』(新評論,1971)、『福祉社会への地域計画』(大明堂,1981)、『都市的土地利用の立地論』(中央大学生協出版局,1989)の書籍は高い学術的成果を示すとともに若手研究者へいくつかの有力な研究方向を示唆し後進の育成に寄与した。

同会員は中央大学をはじめ、山梨学院大学、千葉工業大学、帝京大学、埼玉大学においても教鞭をとり経済地理教育に貢献した。著書『地域再生と国際化への政策形成』(中央大学出版部,2003)は、グローバル化する

世界で地域経済のあり方を勉強する多くの大学生に経済地理学的考察への糸口を提供した。

同会員は 1934 年生まれで、1961 年の幹事就任以来、長期に渡り学会の運営において尽力された。経済地理学会評議員(1977～2000 年)、経済地理学会代表幹事(1975～76 年)、経済地理学会関東支部長(2000～2002 年)を歴任し、2005 年には経済地理学会大会委員長を務めた。これらに加え、『経済地理学の成果と課題 第Ⅲ集』(1984)編集委員長の役割を担い本学会の発展に寄与してきた。

以上の金田昌司会員の功績は本学会の名誉会員にふさわしいものであり、ここに名誉会員として推薦する。

2014－15 年度経済地理学会名誉会員推薦委員会

委員長 山川 充夫